ブダペスト通信

盛田　常夫

2024 年　NO. 12

6 月 15 日

カラチョニィ市長の再選が確定

6 月 9 日に実施されたブダペスト市長選では、324 票差でカラチョニィ市長の再選が決まりましたが、無効票 24,592 票の再点検を求めたヴィティーズ候補の請求にもとづき、昨 14 日に選挙管理委員会の調査委員会が開かれました。夜の 7 時まで結果発表がずれ込みましたが、最終的に票差は 41 票まで縮まりましたが、カラチョニィの再選が確定しました。

この混乱の背景には次のような問題があります。

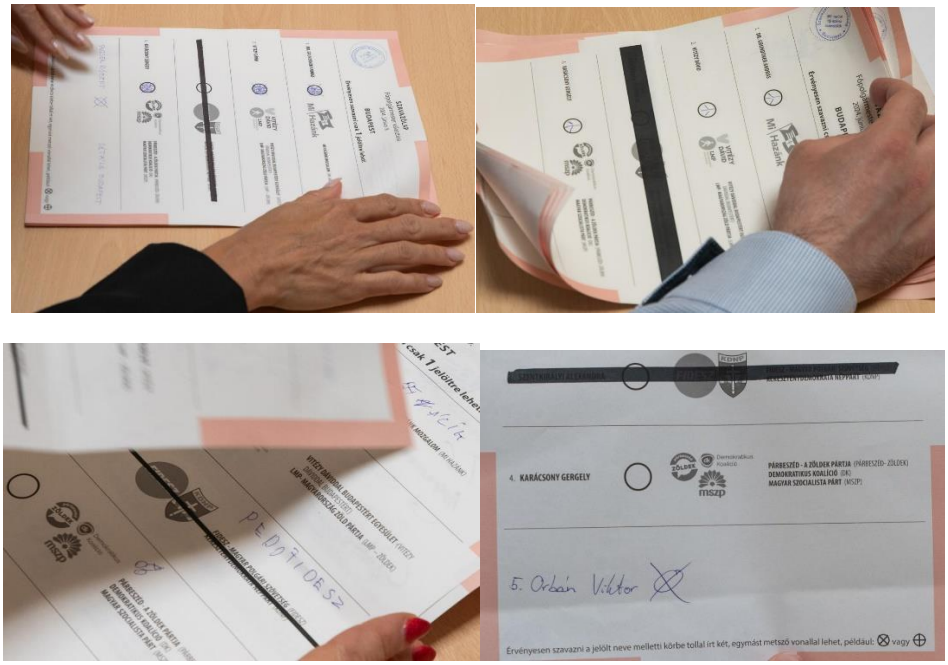
1.　Fidesz 政権は単独候補でカラチョニィ市長に勝てないとみて、Fidesz 候補ともう一人の候補（ヴィティーズ）を擁立するという高等戦術をとり、政権支持票の掘り起こしと、非オルバン非ジュルチャーニィを掲げるヴィティーズ擁立で、野党の票の切り崩しを図るという選挙戦術を取りました。票を掘り起こす作戦は奏功し、事前の世論調査では、単独候補として勝算はないが、二人の候補の支持を合算できれば、市長のポストを奪還できるところまできました。

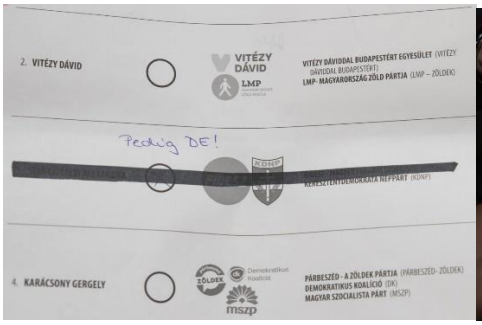
2.　当初のシナリオにもとづき、投票日直前になって、Fidesz候補が選挙戦から降りることを宣言し、ヴィティーズ候補の支持を訴えました。ヴィティーズ候補は野党の LMP との共同候補として立候補しましたが、多くの人々は事実上、Fidesz 候補として認識していました。しかし、LMP 党内ではヴィティーズ擁立の背景に疑念を抱いた人がいて、Fidesz 候補であることが最終的に判明したことで党内や支持者に混乱が広がりました。

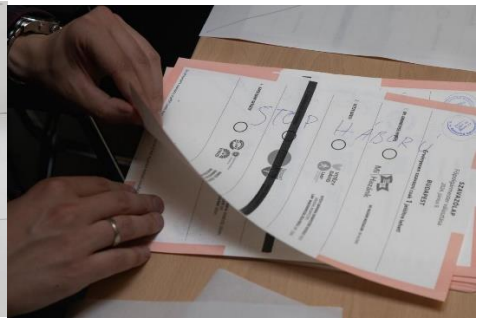
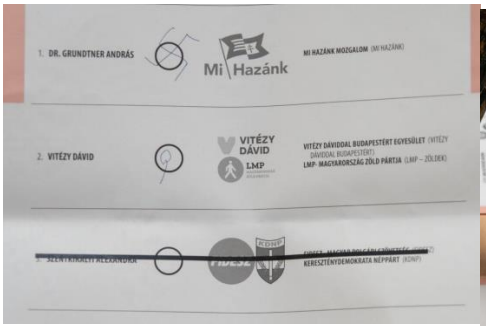
　同じことは、Fidesz 陣営にも言えます。ヴィティーズが事実上の Fidesz 候補であることを理解できない支持者のあいだで戸惑いが広がりました。

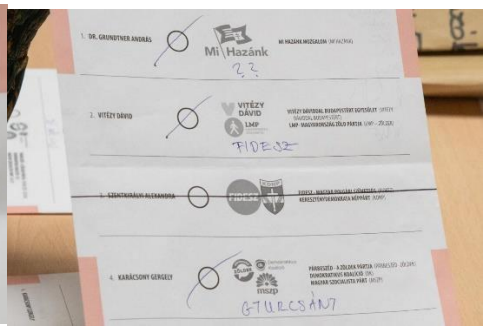
3.　ハンガリーの選管体制は万全ではなく、投票日２日前に候補者が下りた場合の投票用紙の修正の仕方が徹底されていませんでした。２日前まで降りることができると規定で明記しながら、実際に候補を降りた場合の投票用紙の取り扱いを一律に決めていないのです。これはハンガリーでは良くあることで、規則と実際の準備態勢が常に齟齬をきたすのです。

　投票区ごとに、投票用紙の修正の仕方が違っていました。Fidesz 候補の欄に細い線を引いたもの、太い黒線で塗りつぶしたもの、太い黒線が引かれているが Fidesz 候補者名が分かるものなど、投票区によって種々の投票用紙が配布されていました。このため、Fidesz 候補とヴィティーズ候補の両方に投票の×印を付けた無効票ができました。これが無効票を増やした原因だと言われていますが、これだけでなく高等戦術でフラストレーションを感じた Fidesz 支持者あるいは LMP 支持者が、種々の無効票を投じた可能性があります。







4. Fidesz 陣営は Fidesz 候補とヴィティーズ候補の両者に×印（投票）した無効票を、有効票として算定すべきという論を展開しました。しかし、選管規定によれば、単独投票印以外の事項記入は無効票です。しかし、Fidesz 政権下で好き勝手なことができることに慣れてしまった政権陣営は、選管規定を事後的に変更することも可能だと考えるのです。発展途上国ではよくみられるパターンですが。ヴィティーズ自身も、無効票が多かったのは、Fidesz 候補者名を完全に消し去る投票用紙を用意できなかったためだとして、とくに無効票が多かったブダペスト 4 区と 7 区の選挙のやり直しを求めました。これは最終的に却下されましたが、それもこれも、Fidesz の高等戦術による自縄自縛の結果です。ハンガリーの選管の能力を考えれば、このような事態が起きることは想定内のことであり、それを計算に入れずに、直前に候補を下ろす選択を行った Fidesz 陣営の失策でしょう。

なお、市長選と同時に行われたブダペスト市議会の党派別得票を見ると次のようになっています。

Fidesz	28.69%
Tisza	27.34
Parbeszed-Zoldek-DK-MSZP	16.52（カラチョニィ市長所属）
Vitezy-LMP-Zold	10.15（ヴィティーズ候補所属）
MKKP	7.89
Momentum	4.98
Mi Hazank	3.81

カラチョニィとヴィティーズの得票率は 47.5%です。Fidesz 陣営の基礎票は 38.84(28.69+10.15)%、カラチョニィ陣営のそれは 16.52%です。Fidesz 陣営が陣営外から獲得した得票は 6.66%であるのにたいし、カラチョニィ陣営が外部から獲得した得票は 28.98%です。Tisza Part へ投票した人々の 7 割方が、カラチョニィ陣営に投票したと考えられます。

欧州人民党党首マンフレッドがブダペストを訪問し、Tisza Part のマジャール・ピーテルと会談し、人民党会派への参加を要請し、マジャールは前向きの回答を行ったとされています。他方、Fidesz が欧州人民党を退会した後、Fidesz と連立を組む KDNP の議員 1 名が人民党に残ったままですが、Tisza Part が人民党に加わることになれば、人民党を退会することを明言しました。

欧州議会における Fidesz の身の振り方は簡単ではありません。右派が伸長したといっても、極右以外の右派党派はウクライナ支援に賛同しており、ウクライナ支援に反対するハンガリーが加われる会派は極右党派しかありません。しかし「極右」とレッテルを張られることだけは避けたいので、オルバンにとって極右党派に加わることは本意ではありません。しばらくの間、欧州議会での Fidesz の漂流が続きます。

なお、政治学者ケーリ・ラースローのインタヴューが、選挙後の政治情勢の判断に役立ちます（https://www.youtube.com/watch?v=suSgIJDSoxc）。ケーリ・ラースローについては、拙著『体制転換の政治経済社会学』（日本評論社、2020 年、197 頁）を参照してください。経済学者の Petschnig Mária Zita が、ケーリ夫人です。ともに Helia Fitness Club の常連客で、Fitness Club で良く政治談議をする仲間です。